

次世代郊外 まちづくり通信

次世代郊外まちづくり通信は、「次世代郊外まちづくり」のさまざまな活動をお知らせし、地域の皆さまをはじめとして多くの方々知ってもらうためのニュースです。

vol.23

2018年度 6つの活動方針をご紹介します

横浜市と東急電鉄が包括的なまちづくりの協定を更新して、2018年4月で2年目を迎えました。住まいから歩ける範囲内に暮らしに必要な機能が整い、誰もが安心して住み続けることができるまちを目指す「コミュニティ・リビング」の取り組みを推進するため、今年度も6つの活動方針を策定しました。

1 エリアマネジメントの推進

地域に関わる多様な組織・グループがともにまちづくりに取り組めるよう、様々な活動のネットワーク化を進め、主体となってまちづくりの課題を解決する団体の組成を試みます。

4 健康でいきいきと暮らせる まちの推進

健康でいきいきと暮らせるまちづくりにむけて、地域の団体等の連携を通じて健康に関する学びや実践の場を創出します。

2 郊外住宅地での新たな就労の あり方や働き方の推進

郊外住宅地での新たな就労のあり方や働き方の提言にむけて、現在の状況や課題を洗い出し、郊外住宅地の新しい就労や働き方が実験的に体験できる場を創出します。

5 郊外住宅地における新しい 暮らし・住まいの提言

新しい暮らし・住まいの提言に向けて、団地や社宅等、まちの既存の建物のあらたなる活用方法の検討や、周辺商店街と連携したまちの賑わいづくりを進めます。さらに、住宅地における新たな移動のあり方も検討します。

3 まちぐるみの保育・子育ての 推進

まちぐるみの「保育・子育て」にむけて、これまで構築した様々な主体によるネットワークを活用しながら、子育てに関する情報発信、子ども達の居場所、親同士の対話・相談、交流ができる場を創出し、継続できる仕組みを検討します。

6 「次世代郊外まちづくり」の 情報発信、及びプロモーション

WISE Living Labの中核施設である「共創スペース」等を活用して次世代郊外まちづくりの活動を発信します。また、広く他の沿線への波及をめざし、シンポジウム等の実施を検討します。

2017年度 に実施した活動をご報告します

1

コミュニティ・担い手

エリアマネジメントを見据え、地域のさらなるコミュニティ形成、まちづくりの人材の裾野拡大や持続可能な仕組みづくりのため、WISE Living Lab を活用した交流や学びの場の創出、まちづくり活動を支援する仕組みを設けます。

● リビングラボ勉強会

持続可能な仕組みづくりを目指し、新しいまちづくりの手法として注目されつつある「リビングラボ」に関する勉強会をスタートしました。2017年12月と2018年2月の2回、地域住民や関心の高い企業や行政、大学などのメンバーが集まり開催しました。



勉強会は大勢の参加がありました

◆ 1回目「リビングラボを知ろう！考えよう！」

：リビングラボについてみんなで学び、互いの気づきを共有しました。

◆ 2回目「リビングラボを知ろう！やってみよう！」

：リビングラボの事例紹介の後、リビングラボの実践者と共に、仮の課題をもとにリビングラボの体験会を開催しました。



2回目にはリビングラボの体験も

また2018年2月にはたまプラーザ版のリビングラボとして第1号となる「ママのサードプレイスづくりプロジェクト（仮称）」をKDDI 総研と共にスタートさせました。

PEOPLEWISE CAFE を会場に地域の子育て世代が集まりママの居場所づくりについて話し合いました



● サポート企画

2017年6月からまちづくりやコミュニティ形成に関する活動に対して、WISE Living Lab 共創スペースの利用などの支援を実施する「サポート企画」をスタート。2018年3月までに15企画が採択され、地域の方にご利用いただき、コミュニティ形成の第1歩を応援しました。

■ サポート企画一覧 (2017.6 - 2018.3)

- ①「街のはなしプロジェクト」
- ②「美しが丘愛護会活動」
- ③「和紙の折り染めワークショップ」
- ④「百段階プロジェクトまち歩き企画」
- ⑤「セカンドキャリアスタートアップ講座」
- ⑥「プラモウリンまち歩き」
- ⑦「ハートニットカフェ」
- ⑧「ししゅうカフェ」
- ⑨「書き初め体験ワークショップ」
- ⑩「あおば食育プロジェクト・手前味噌づくり」
- ⑪「美しが丘動画クリエイター育成セミナー」
- ⑫「たまプラーザアンサー」
- ⑬「GALLERY ROPEACE・ダブルダッチ体験会」
- ⑭「森ノオトライター養成講座」
- ⑮「入園・入学準備応援！手づくりサポート DAY」



街のはなしプロジェクト



森ノオトライター養成講座



あおば食育プロジェクト・手前味噌づくり



GALLERY ROPEACE



ししゅうカフェ



書き初めワークショップ

2

● WISE 図書館

本を通じたコミュニティ形成や、新しいまちづくりへの参加者を募る企画をスタートさせました。お勤めの本を持ち寄り POP を作成し、共創スペースに本とともに飾りました。計2回実施し、年齢も背景もちがうさまざまな方が集まり本を通じた輪が広がりました。



講師からPOPづくりのポイントを学んでその場で実践参加者1人1人ができあがったPOPを使いながら本を紹介しました



できあがったPOPと寄贈された本は共創スペースに並んでいます

2

働き方

郊外住宅地での新たな就労のあり方や働き方の提言にむけて、学識者や専門家を交えて、現在の状況や課題を洗い出し、ディスカッションをする場を設けます。

● 新たな就労のあり方や新しい働き方の提言にむけての事例調査

新たな就労のあり方や新しい働き方の提言にむけて、そのヒントとなる国内の先行事例の調査をテーマごとに実施しました。

- ◆ テーマⅠ「新しい働き方を推進する体制や仕組み」
- ◆ テーマⅡ「人材発掘・育成」
- ◆ テーマⅢ「仕組みや働く人を支える資金のあり方」

3

保育・子育て

まちぐるみでの「保育・子育て」にむけて、これまで構築した様々な主体によるネットワークを活用しながら、子育てに関する情報発信、子ども達の居場所、親同士の対話・相談、交流ができる場を創出します。

● 子ども・子育てタウンミーティング

「まちぐるみの保育・子育てネットワークづくり」を実現するため、地域の保育・子育て関係者に呼びかけ開催しています。保育・子育て関係者同士の「顔の見える場づくり」に主軸を置いたミーティングを4回実施し、それぞれの立場に基づいた積極的な意見交換がされました。

● ファミリーリソースプロジェクト

「子ども・子育てタウンミーティング」の対話の中で出たアイデアや意見をもとに、「子育て家庭と地域の子育てを支えている方々の、そして子どもはもちろんパパママ同士の出会いの場になれば」との思いから生まれました。2017年度はWISE Living Lab にて2回実施し、会場は多くの子どもとパパママで賑わいました。



ファミリーリソースプロジェクトは多くの人で賑わっていました



モデル棟では本の読み聞かせを親子で楽しみました



共創スペース前の駐車場を使ってダブルダッチ体験会も開催



PEOPLEWISE CAFE でまちの模型を使ったワークショップを実施

3

健康でいきいきと暮らせるまちづくりにむけて、健康に関する学びの場や考える機会を創出します。

● 健康セミナー

快適で健康な生活を支えるまちの仕組みづくりを推進するため、「健康」をテーマとした連続セミナーを5回開催しました。

- ◆2017年6月 「認知症」とまちづくり
- ◆2017年10月 「食事」とまちづくり
- ◆2017年11月 「運動」とまちづくり
- ◆2018年1月 「睡眠」とまちづくり
- ◆2018年3月 「おなかの健康」から元気に



新しい暮らし・住まいの提言にむけて、住宅団地や社宅等、まちの既存の建物のあらたなる活用方法の検討や、周辺商店街と連携したまちの賑わいづくりを進めます。

● 美しが丘一丁目計画の推進

2016年7月に都市計画決定した地区計画に基づき整備が進む「(仮称)美しが丘一丁目計画」では、2018年秋に地域利便施設(一部除く)がオープンする予定です。今年度はコミュニティリビングを具現化し、地域の方とのさらなる連携をめざし、地域利便施設のより具体的なコンセプトを検討しました。



WISE Living Lab の中核施設である「共創スペース」等を活用して次世代郊外まちづくりの活動を発信します。

● まちづくり通信発行

活動の様子や告知をまとめた「次世代郊外まちづくり通信」を計5回発行。モデル地区の住民の方を中心に周知につとめました。



● 共創スペース壁面利用

共創スペースに、次世代郊外まちづくり活動の理念やリビングラボをはじめとする活動報告をまとめて掲示しました。



● 地域イベントへの出店

夏祭りや桜まつりで「次世代郊外まちづくりブース」を出展し、来場者をはじめとするみなさまに活動の周知を行いました。



● アンケート調査

これまでの5年間の取り組みによる効果やご意見を伺うために、美しが丘1・2・3丁目にお住まいの全世帯を対象に実施しました。ご協力ありがとうございました。今後の活動や2018年度の方針の参考にさせていただきました。

